



倒壊した納屋から農機具を取り出す作業を引き受けた（5月9日、熊本県益城町で）



災害ボランティアセンター内に災救隊のブースを構え、自治体と連携しながら活動した



瓦が欠落した屋根にブルーシートを張る隊員たち（5月4日、同）

# 「熊本地震」被災地で長期の救援活動

## 災救隊「底なしの親切」で住民の要請に応え

最大震度7の地震を2度観測し、九州地方に甚大な被害をもたらした「平成28年熊本地震」。天理教の災害救援組織「災害救援ひのきしん隊」（略称＝災救隊）は、地震発生直後から迅速に対応し、被害が集中した熊本県益城町へ出動。4月20日から順次、隊の派遣を継続した。隊員たちは、現地の災害ボランティアセンターの立ち上げに協力したほか、被災住民からのさまざまな要請に「底なしの親切」で応え、瓦礫撤去や屋根のブルーシート張りなど、こまやかな活動を繰り返した。

